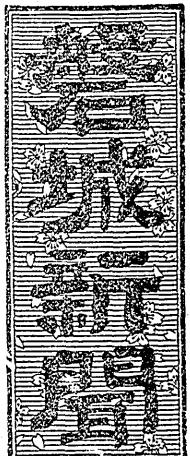


刊



## 六號記事

白木英尾

昭和七年十月三十日

三月二十三日夜、久原幹用した。最初からその計畫も泰山鳴動した内閣改造問題も鈴木内相、川村法相の新聞記者がこの計畫にまつまのやうな改造成功は確められたので何も書けないでしまつた。あれがもう五位前に起つてくれれば間に合つた。今度の五月号には揃つて蒸しかへすだらう。そこで大抵各新聞を通じて一通りは判つてゐる様に、筆をそろへて大森首相の頭のいい編輯者はそれを察して全然オミットするかも知れない。然し、ここに一つようしても解けない謎がある。

それはあとで判るが、大

れば床次のトモ出ない。

この時は大臣首相は

どちら餘り飛びくまい。

しかし、ここに一

首相一任となつた。一任さ

れただま首相は引上げし

まつた。鈴木のスも出な

いた、そして後任に就いては

らなかつた。その日の閣議

で中橋内相の辭職が決まつ

った。それで床次のトモ出

ない。何故といふに、三月

十五日午後あの號外が出た

時、實は大臣首相は何も知

らない。何故といふに、三月

十五日午後あの號外が出た

# 見る 天候は明朝がら直る オール赤字の悲鳴も消えて 愈々展開する春! の姿

「花の卯月」満を持したる松ヶ岡の櫻花は悉くその蕾を破つて萬象燃亂の繪卷を展べ花間の三味太鼓に浮世をよその大歡樂境を現出する陽氣な日もこゝ數日後には雲裏に、地にはオール赤事ではある。

然れども云ふ事なけれ、之の陰鬱な天候も自下の處

氣壓の異動が激しい爲にこ

んな事になつてゐるが小名

濱測候所の觀測によれば相

當強く今夜一と降りつた

い春の姿でも見やうではな

いか。

先づ町の大玄關である平

驛から…包み切れぬ歡

喜を頬に浮べつつトラン

ク、バスケット等を携へ

て右往左往する人、人、

人、赤字づくめの平驛に

も「春」は訪れて居る。

(括弧内が一月と比較

しての増加)

(三月)乗車四萬五千二十

一人(一千百二十六人)

二萬一千四百三十九回八

十五回(二千五十二回七

十二回)降車四萬四千二

百三十五人(一千二百四

十七人)であり團体旅行

に徹底して來た最近の昭和

割引、臨時列車運轉、其

の他觀櫻會團體の雪崩

込み等で花四月に於ける

平驛の卒吐は又莫大な數

字となつて現はれやう。

入場券の賣行きは何うか

若い男女に法悦漲る春育

れ際にせめてホーム迄と

此處にも春の姿は映し

△腰巻き罪あり、兵庫縣酒店外交員藤島秀雄(四)は郎(五)は長濱南片麻三業取染客戸済南屋永澤町二丁目大黒屋

△腰巻き罪あり、兵庫縣酒店外交員藤島秀雄(四)は